# 植柳の風

八代市立植柳小学校　校長室便り
平成３１年２月４日　　ＮＯ．１２５

## 心根（こころね）を育てる

雪の下の 故郷の夜 冷たい風と 土の中で
青い空を 夢に見ながら 野原に咲いた 花だから
どんな花より たんぽぽの 花をあなたに おくりましょう
どんな花より たんぽぽの 花をあなたに おくりましょう

朝、校長室にいると、ある曲が校内放送で流れてきた。「たんぽぽ」の歌である。３０年前、ギター片手に帰りの会でクラスで歌っていたので、とても懐かしく思い、今月の歌として、本校の子どもたちが元気に歌っていることも、何かの巡り会わせだと思ったことだった。

日曜日の朝、学校Ｈ．Ｐを見たら、土曜日に学校南側の道路沿いにある木々の剪定工事があったことが伝えられていた。子どもたちが通学しない土曜日に、道路を通行止めにして工事していただいた工事関係の方たち、このことを写真に撮って伝えてくれた先生に感謝した。厳橿の森に代表されるように、本校にはたくさんの木があるわけだが、考えてみれば、「学校」という漢字はよく見てみると、「木が交わるところで学ぶ」と書いてある。木が放つ香りや安心感、安定感の中で、子どもたちの豊かな心も育てられるわけだから納得である。最近、都会では、鉄筋コンクリートづくりの校舎、樹木の少ない校庭が多い学校も増えているわけだが、その意味では、本校は緑がいっぱいで、日本一の環境が整っているのではないだろうか。

先週の全校集会で「休眠打破」の話をする前、厳橿の森や運動場の桜や梅を観察しに行ったが、樹木たちは生きていることをつくづく感じた。夏の猛暑も、冬の厳しい寒さも耐えしのぎながら、根を張り、幹を伸ばし、葉を茂らせていく。樹木の健全度は、その根にあるといわれるが、植柳の豊かな土壌が、樹木だけでなく、子どもたちの体と心を育んでいることを休み時間に鬼ごっこをしている子どもたちを見ながら実感した。

「心根」という言葉がある。意味は、心の奥底、本性、本当の心などであるが、心に根があるという発想自体が面白い言葉である。ただ「根」という漢字は、根本、根源、根幹、根性、根気など、物事の核心をとらえる、大本となっているもの、大切なものという意味が込められているので、「心根」という言葉も実に奥が深い。

２月は、全校集会でも話したが、次の新しい年度に向けていい準備をしなくてはならない月であるが、なんとなくふわふわと落ち着かない月でもある。私の長い教職経験の中でも、不登校や怪我・事故など、いろいろと生徒指導面でも気を使うことが多い月である。新しい目標に向け、本気スイッチ、やる気スイッチを入れさせながら、気を引き締めていかねばならないと心している。大切なのは、表面上に見える子どもの様相の変化だけでなく、本音の部分、心根の部分をしっかり育てていくことが求められる。プロ教師として何ができるか、自分自身を振り返りながら取り組んでいきたいと思う。

最後にマラソン金メダリストの高橋尚子さんが恩師から贈られたという言葉を紹介する。「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根をのばせ。やがて大きな花が咲く」たんぽぽの花も、厳橿の森の樫の木も、地中に深く根を伸ばして成長していることを忘れてはならない。